

## 救命救急センター・救急科

定光大海

救命救急センター・救急科（総合救急部）は主に三次救急を担っている。受け入れる傷病者では外傷と院外心停止例が多く、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例への対応を目的とした大阪府コーディネート事業にも参加しているが、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保証するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。

災害医療では、DMAT (Disaster Medical Assistance Team)としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、広域の共同研究や災害訓練にかかわってきた。平成 25 年 10 月に DMAT 事務局が本院で開設され、東京にある事務局の代替機能を果たすことが求められている。今後予測される南海トラフ大地震、首都直下型地震をはじめ、自然災害や人為的災害にも対応するための機能と機動性の充実が求められる。研究テーマも三次救急の代表的な病態である多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全が中心になる。院外心停止のCT画像診断の意義についてのNHO共同研究は92例の症例登録を行い、完了した。NHO指定研究である「広域災害時のNHOの役割」では、災害時要救護者への対応策についてアンケート調査を行った。厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療録を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を単年度で行った。近畿多施設共同研究では「院外心停止例の蘇生後人工呼吸器関連肺炎に関する前向きコホート研究」について主任研究者としてまとめた。遺伝性血管性浮腫 (HAE) 疫学調査の分担研究も継続中である。今後は、熱傷や軟部組織損傷に対する再生医療を計画していきたい。

臨床と研究を担うスタッフ医師も新たな人材確保ができて、今後さらに診療・研究機能を展開できると期待している。

### 【2013 年度研究発表業績】

A-0

Aikawa N, Takahashi T, Fujimi S, Yokoyama T, Yoshihara K, Ikeda T, Sadamitsu D, Momozawa M, Maruyama T. A Phase II study of polyclonal anti-TNF- $\alpha$ (AZD9773)in Japanese patients with severe sepsis and/or septic shock. J Infect Chemother 2013;19:931-940( 2013 年 3

月)

Shimamoto Y, Fukuda T, Tanaka K, Komori K, Sadamitsu D: Systemic inflammation response syndrome criteria and vancomycin dose requirement in patients with sepsis. Intensive Care Med 2013;39:1247-1252. (2013年4月)

Tanaka A、Nakano M、Katayama I、Tahara K、Koh S、Goto S、Takahashi R. Adult case of Stevens-Johnson syndrome possibly induced by Chlamydomphila pneumoniae infection with severe involvement of bronchial epithelium resulting in constructive respiratory disorder. JOURNAL OF DERMATOLOGY 2013; 40 ( 6 ) : 492-494 (2013年6月)

Yamamoto N、Takegawa R、Seki M、Takahashi K、Tahara K、Hirose T、Hamaguchi S、Irisawa T、Matsumoto N、SHimazu T、Tomono K. Pneumorachis associated with multiorgan infection due to Citrobacter koseri. DIAGNOSTIC MICROBIOLOGY AND INFECTIOUS DISEASE 2013;77 ( 4 ) 370-372 (2013年12月)

Takahashi T, Harada M, Kikuno M, Ujihara M, Sadamitsu D, Manabe Y, Yasaka M, Takayama H, Kobori S, Araki E: Prevalence of metabolic syndrome in stroke patients: a prospective multicenter study in Japan. Acute Medicine & Surgery 2014; 1: 17-22 (2014年1月)

A-1

上尾光弘: この症状！絶対コール！もっと知りたい異常の見抜き方 よくあるこんなシーン⑤「エキスパートナーズ」織田 順、29 (10) : 112-118、照林社、2013年8月

A-2

定光 大海: 血液型不適合輸血「今日の診療 2014」山口徹 北原光夫: 70-71、医学書院、東京、2014年1月

定光 大海: 家庭用防虫剤中毒「今日の診療 2014」山口徹 北原光夫: 132、医学書院、東京、2014年1月

田原憲一: 突然の腹痛「今日の診療 2013」山口徹 北原光夫 福井次矢: 17-18、医学書院、東京、2013年4月

若井聡智、定光大海: 嘔吐、過換気、耳鳴り、30歳、男性 アスピリン中毒 急性中毒を推理・解決する「救急・ERノート 9」上條吉人: 84-90、羊土社、東京、2013年

7月

若井聡智、定光大海：嘔吐、過換気、耳鳴り 30歳、男性 急性中毒を推理・解決する「救急・ERノート」：P.84、羊土社、2013年7月

若井聡智、定光大海：ブロムワレリル尿素 急性中毒攻略法「若井聡智、定光大海：ブロムワレリル尿素 急性中毒攻略法「救急・集中治療」上條 吉人、25（7・8）：839-844、総合医学社、東京、2013年8月

嶋津岳士、若井聡智：脱法・違法薬物の基礎知識「Medical Technology -深刻化する脱法・違法薬物乱用(その実態・対策から臨床検査まで)」、41(11):1150-1157、医歯薬出版株式会社、東京、2013年11月

若井聡智、定光大海：急性心不全 「救急医学」田崎 修：37(13)、1747-1751、へるす出版、東京、2013年12月

A-3

松本寿健、西村哲郎、大西光雄、若井聡智、定光大海：Candida glabrata が検出されたフルニエ壊疽の一例「日本救急医学会雑誌」25（2）：43-49、2014年2月

A-4

定光大海、有馬京子、海老原卓志、山口寿美枝、篠原純史：シンポジウム、救急医療における多職種連携。医療 2013；67:489-91、東京、2013年12月

A-6

曾我部拓、島原由美子、西村哲郎、定光大海：BlomR気管切開チューブの使用経験「日本集中治療医学会雑誌」21、51-52、東京、2014年1月

B-2

Saoyama Y, Wakai A, Onishi M, Hattori Y, Hirose T, Sadamitsu D : Successful Administration of bolus gastric feeding in acute phase of traumatic brain injury。Neurtrauma 2013、Gayload Opryland Resort & Convention Center (Nashville,USA) 、2013年8月

Ehara N, Wakai A, Ishida K, Sogabe T, Tatsuno S, Shimahara Y, Tahara K, Nishimura T, Noborio M, Sadamitu D.Serial Changes in Values of Cerebral Regional Saturation of Oxygen During Resuscitation in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest. Resucitatioon Science Symposium, Dallas Convention Center, Dallas, Texas 、2013年11月

Nishimura T, Sogabe T, Shimahara Y, Wakai A, Sadamitsu D. THE POTENTIAL TO UTILIZE BLOOD GAS DATA AS PROGNOSTIC FACTORS IN CARDIOPULMONARY ARREST CASES、Society of Critical Care Medicine(SCCM),USA, 2014年1月

Tanaka T, Wakai A, Ohnishi M, Sadamitsu D. The features of traumatic brain injury with acute deterioration after recovery of consciousness. International Neurotrauma Society 2014, Budapest, Hungary, 2014年3月

Shimamoto Y, Fukuda T, Tanaka K, Komori K, Sadamitsu D. Systemic inflammatory response syndrome criteria and vandomycin dose requirement in patients with sepsis. Intensive Care Med 2013;39:1247-1252 (2013年4月)

### B-3

島原由美子、西村哲郎、定光大海、奥地一夫：心拍再開した院外心停止例の肺感染症発生率に関する多施設共同研究。第41回日本救急医学会、東京、2013年10月

島原由美子、曾我部拓、佐尾山裕生、田中太助、岡島祥憲、立野里織、西村哲郎、定光大海：保存療法を選択した重症頭部外傷に対する体温コントロールの検討。第41回日本集中治療医学会 総会、京都、2014年2月

### B-4

曾我部拓、島原由美子、佐尾山裕生、西村哲郎、定光大海：来院時心肺停止患者における動脈血ガス分析と静脈血ガス分析の比較。第60回日本麻酔科学会 総会、札幌、2013年5月

田中太助、若井聡智、西村哲郎、上尾光弘、定光大海：意識障害を認めたにもかかわらず急激に悪化した頭部外傷死亡例の検討、外傷学会、2013年5月

高尾恭輔(大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)、嶋津岳士、田原憲一、大西光雄、小倉裕司：突然の意識障害、低血圧をきたした著明な高マグネシウム血症の1例。第35回日本中毒学会総会・学術集会、2013年7月

高尾恭輔(大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター)、田原憲一、小倉裕司、嶋津岳士：腸腰筋膿瘍の特異な伸展経路によって気脊柱を併発した一例(会議録/症例報告)。第16回日本臨床救急医学会、東京、2013年7月

島原由美子、西村哲郎、定光大海、奥地一夫：O01-3 心拍再開した院外心停止例の肺感染症発生率に関する多施設共同研究。第 41 回日本救急医学会、東京、2013 年 10 月

榎原巨樹、若井聡智、塩崎忠彦、西村哲郎、島原由美子、立野里織、曾我部拓、石田健一郎、田原憲一、上尾光弘、定光大海：O11-4 院外心停止患者の蘇生処置に伴う脳局所酸素飽和度 (rSO2) の変化。第 41 回日本救急医学会、東京、2013 年 10 月

若井聡智、大西光雄、佐尾山裕生、廣瀬智也、定光大海：当施設における重症外傷患者に対する間欠的経胃ポータス栄養投与法の検討。第 41 回日本救急医学会、東京、2013 年 10 月

岡島祥憲、曾我部拓、立野里織、島原由美子、若井聡智、西村哲郎、上尾光弘、定光大海：両下肢に電流斑を認めた 1 例を含む当院における過去 8 年間の電撃症症例の検討。第 41 回日本救急医学会、東京、2013 年 10 月

榎原巨樹(国立病院機構大阪医療センター)、若井聡智、塩崎忠彦、西村哲郎、島原由美子、立野里織、曾我部拓、石田健一郎、田原憲一、上尾光弘、定光大海：院外心停止患者の蘇生処置に伴う脳局所酸素飽和度(rSO2)の変化(会議録)。第 41 回日本救急医学会、東京、2013 年 10 月

西村哲郎：刺創により両肺貫通創を受傷したが肺切除行わずに治癒しえた一例。第五回 Acute Care Surgery 学会、東京、2013 年 11 月

## B-6

石田健一郎、西村哲郎、立野里織、曾我部拓、上尾光弘、若井聡智、田原憲一、島原由美子、田中太助、榎原巨樹、佐尾山裕生、赤司隼人、定光大海：.初期対応で確信が持てなかった気道異物 2 症例の検討。第 108 回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会）、大阪市、2013 年 7 月

佐尾山裕生、田中太助、曾我部拓、立野里織、島原由美子、西村哲郎、定光大海：感染性心内膜炎から脳幹梗塞を合併した 1 例。日本集中治療学会近畿地方会、兵庫、2013 年 7 月

佐尾山裕生、若井聡智、田中太助、西村哲郎、定光大海：晩期合併症として胆管狭窄を呈した小児肝損傷の 1 例。日本 Acute Care Surgery 学会、東京、2013 年 11 月

佐尾山裕生、若井聡智、榎原巨樹、田中太助、石田健一郎、曾我部拓、田原憲一、島原

由美子、西村哲郎、上尾光弘、定光大海：市販薬トラベルミン®大量内服後に局所性横紋筋融解症を呈した1例。日本中毒学会西日本地方会、2014年2月

曾我部拓、島原由美子、佐尾山裕生、田中太助、西村哲郎、定光大海：保存療法を選択した重症頭部外傷に対する体温コントロールの検討。第41回日本集中治療医学会 総会、京都、2014年2月

#### B-7

佐尾山裕生、若井聡智、曾我部拓、定光大海：ICPモニタリングのみでは急変を予測出来なかった頭部外傷の1例：脳外科救急医によるケースディスカッション in 関西、大阪、2014年3月

#### B-8

定光大海：災害医療。看護学校講義、大阪、2013年3月

上尾光弘：大阪医療センターICLSコース（院内）、2013年6月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）、2013年7月

定光大海：日本救急看護学会主催救急看護セミナー（基礎病態セミナー）重症頭蓋内疾患の診断と治療。久留米、2013年9月

定光大海：災害医療の現況。医師会講演、大阪、2013年10月

上尾光弘：大阪医療センター院内ICLSコース（院内）、2013年10月

定光大海：災害医療。大阪医科大学講義、大阪、2013年11月

上尾光弘：縊頸、絞頸。平成25年度救急救命士新規養成課程（大阪市消防学校）、2013年11月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）、2013年11月

上尾光弘：スポーツ外傷。平成25年度救急救命士新規養成課程（大阪市消防学校）、2013年11月

定光大海：病院前救護体制における指導医等研修 ワークショップ MCにおける事後検証の方法論。神戸、2013年12月

上尾光弘：大阪医療センターICLS コース（院内）、2013年12月

上尾光弘：大阪府医師会災害・外傷初期診療研修会（大阪府医師会館）、2014年1月

定光大海：救急領域における薬剤師の役割。厚生連薬剤業務研修研究会、東京、2014年2月

上尾光弘：大阪医療センター院内 ICLS コース（院内）、2014年2月

上尾光弘：ABLS(Advanced burn Life Support)プロバイダーコース第8回。日本熱傷学会、東京、2014年4月